



佐藤輝夫：北海道日高支庁・静内町海岸

北海道太平洋沿岸の海藻採集地としては北海道大学理学部付属海藻研究施設のある室蘭（胆振支庁）と同付属臨海実験所のある厚岸（釧路支庁）は全国的に有名である。今回の採集地案内はその室蘭から東へ約150Kmに位置する静内町海岸の浅里浜，真歌，春立の3箇所を紹介する（図1，2）。

静内町海岸（図1）は千島列島，根室，釧路，襟裳岬を南下する千島寒流（親潮）の影響を受けているが，津軽海峡からの対馬暖流の支流ともぶつかる海域でもある。静内海岸を含む日高沿岸における海藻の調査研究はコンブ類を含む有用海藻を対象とした水産資源学的な部分は古くから行われている（中村1944，中村他1955）。一般海藻については千原（1972）による日高沿岸の海藻の調査結果の報告がある。モノグラフ的には三上（1970a，1970b，1971，1974，1977）が日高沿岸産の材料を用いて紅藻コノハノリ科数種についての研究報告をしている。筆者も静内海岸産の紅藻を教材化し，高等学校生物の授業で利用している（佐藤1996b；1996c；1998）。

この海域の海水温は冬季は3℃前後，夏季17℃前後である。静内海岸は北海道日高特産のミツイシコンブの産地として有名な所であり，海岸のすぐ近くまで漁

師の家とコンブ干し場がある。冬季でもこの地域は日高山脈のフェーン現象により，北海道日本海沿岸とは異なり殆ど雪は積もらず1年中海藻の磯採集が可能である。

交通機関としては札幌よりJRで苫小牧へ行き，日高本線に乗り換える。この日高本線は，単線で1日9往復しかなく，接続列車の時間を前もって調べておくことが必要である。車では札幌から道央自動車道（高速道路）を利用し，苫小牧東インターで一般国道に降りて，浦河方面行きの国道235号線で行くことができる（最近，日高道として高速道路が沼の端まで延長）。札幌と浦河間の長距離バス（道南バスの高速ベガサス号，静内町までは2時間40分，1日6便がある。）もある。いずれの方法でも札幌より日帰りできる距離にある採集地である。太平洋沿岸では大潮の時の干満の差が150cmほどに及ぶことがあるので，磯採集を行う場合は事前に潮位の確認が必要である。

1. 東静内・浅里浜（42°17'N，142°27'E）

日高本線 JR 東静内駅（無人駅）で下車し，春立方向に歩き（徒歩で20分程）東静内漁港を越えると浅里浜である。車では国道235号線沿いにある（札幌より

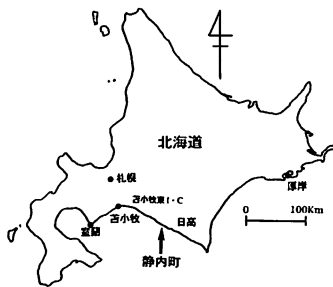


図1. 北海道日高支庁・静内町海岸の位置。

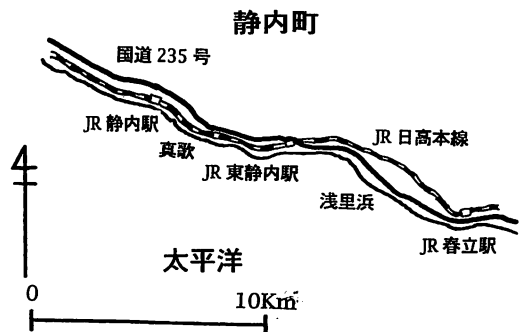


図2. 採集地と最寄りのJR駅を示す。

片道の所要時間2時間30分)。東静内町浅里浜と東に隣接する春立町は5Kmにわたり平磯が続き、古くから潮干狩の場所として知られている。平磯は砂岩、泥岩、頁岩の周期的な互層を形成し、柔らかい泥岩は浸食されて細長い海食溝となり、硬い部分は波食残丘となり凹凸を成している。干潮時には平磯や岩礁が現われ、タイドプールも数多くあり、海藻の採集に適している(図.3)。

春季にはマツモ、フクロフノリ、ヘラリュウモン、ノリ等やアサリ貝採りの家族連れで賑わい、夏季は海水浴やキャンプを楽しむ子供らの姿も見られる。浅里浜では(亜)寒帯性海藻としてはキタイワヒゲ、チシマハバモドキ、チガイソ、ミツイシコンブ、ヒバマタ、エゾイシゲ、チシマクロノリ、キタイシモ、カサキノコイシモ、オキツバラ、オオバオキツバラ、マルバアカバ、ヒメトサカモドキ、ユウソラ、ツカサノリ属の1種(エゾツカサノリ)、カレキグサ、エゾナメシ、ベニフクロノリ、アツバダルス、カタワベニヒバ、カラフトヨツガサネ、コノハノリ、ナガコノハノリ、アツバスジギヌ、ハケサキノコギリヒバ、オオノコギリヒバ等が生育する。温帯性海藻としては、アナアオサ、カヤモノリ、アミジグサ、ウップルイノリ、ミヤヒバ、ヘラリュウモン、フクロフノリ、カタノリ、ムカデノリ、ヒラムカデ、ツルツル、ネツキイタニグサ、イソダンツウ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、イソムラサキ等が生育する。

垂直分布的には飛沫帯ではヒビミドロ、マツモ、ヒバマタ、エゾイシゲ、フクロフノリ、クロハギンナンソウ、イボノリ等の耐乾性の強い種が生育し、潮間帯ではモツキヒトエ、エゾヒトエグサ、アオノリ類、アナアオサ、タマジユズモ、カヤモノリ、キタイワヒゲ、チシマハバモドキ、アミジグサ、ノリ類、ヘラリュウモン、ビリヒバ、ツルツル、ダルス、コスジフシツナ



図3. 浅里浜海岸。



図4. 真歌海岸。

ギ、フジマツモ、オオノコギリヒバ、イソムラサキ等が見られる。潮下帯にはウルシグサ、スジメ、ミツイシコンブ、ウガノモク、イソキリ、カレキグサ、カタワベニヒバ、クシベニヒバ等の大型の海藻が目立ち、さらに深所にはアナメ、無節サンゴモ類、オオバオキツバラ、コノハノリ等が生育している。室蘭(Sakai 1986)では生育しておらず浅里浜で採集できる種:スジアオノリ、キタイシモ、オキツバラ、オオバオキツバラ、エゾナメシ、アツバダルス、カタワベニヒバ、コバノクシベニヒバ、スズシロノリ、ナガコノハノリ等、厚岸(Yamada and Tanaka 1944)では生育しておらず浅里浜で採集できる種:シワヒトエグサ、ツヤナシシオグサ、ハネモ、チガイソ、ミツイシコンブ、アミジグサ、ウミトラノオ、オオノリ、ヘラリュウモン、ムカデノリ、イソダンツウ、ネツキイタニグサ、フタツガサネ、ハイウスバノリ、ヒメムラサキ、キブライトグサ等がある。SCUBA潜水による採集は事前に漁業組合に連絡する必要がある。日本海側と比べると年間を通して透明度が悪い上、水温も低く、ミツイシコンブ等が海中に繁茂しているためSCUBA潜水採集には十分に適しているとは言えない。最近では消波ブロックの投入で沿岸流の流れが変わり砂が流入するようになった。筆者は札幌清田高校理科部の生徒と1994年より月1回の割合で海藻採集と観察を行っている(佐藤1996a, Sato 1997)。海藻が豊富に生育し、打ち上げ海藻も多数種採集できる。

2. 真歌 まうた (42°18'N, 124°24'E)

東静内からはJR 静内駅方向へ北西約8kmのところ位置し、夏季には「海辺のキャンプ場」として賑わう(夏季のみ駐車場は有料となる)。広範囲に砂浜が広がっているが、干潮時には採集に適した岩礁が現われる(図.4)。打ち上げ海藻も多数種採集できる。岩上に



図5. 春立海岸。

はエゾヒトエグサ、アナアオサ、マツモ、ミツイシコンブ、ウガノモク、フクロフノリ、クロハギナンソウ、カレキグサ、ピリヒバ、アツバダルス、フジマツモ、イソムラサキ等が生育する。夏季であればキャンプをしながら海藻の観察や採集ができる。

3. 春立 はるたち (42°18'N, 124°24'E)

JR日高本線春立駅(無人駅)で下車し、海岸の方へ歩き(徒歩5-10分)、右方向に向かうと春立漁港が見えてくる。漁港を越えると浅里浜から続く5Kmにわたる平磯が見られる。浅里浜と同様に、古くから魚釣や潮干狩の場所として知られている(図.5)が、コンブ干し場が道路と海岸の間にあるため簡単に海岸に行けないところが多いのが難点である。海藻植生は浅里浜とはほぼ同様だが、浅里浜には生育していない種も見られる。干潮時には海藻採集が容易にでき海藻の生育量も多い。ミツイシコンブ、アナメ等の大型海藻の打ち上げが多く見られる。

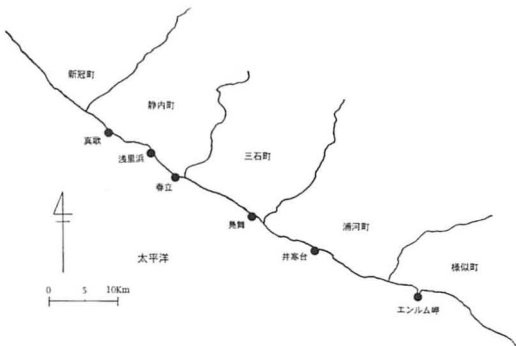


図6. 静内町以外の採集地

4. その他の採集地

静内町を離れてさらに足を伸ばせば、春立海岸から南東方向へ行くと三石、浦河、様似町へと続く(図6)。日高昆布として有名なミツイシコンブの特産地である。夏季にはいたるところでコンブ干しの光景が見られ、日高地方の風物誌となっている。又、時化の後の荒海の中に拾いコンブ漁をする漁師の姿も見られる。三石町では梟舞(けりまい, 42°13'N, 124°37'E)、浦河町では古く潮干狩の場所として有名な井寒台(いかんたい, 42°10'N, 124°44'E)様似町ではエンルム岬周辺(42°07'N, 124°55'E)等が海藻の採集に適していると思われる。

静内町海岸産の海藻について常日頃より御指導を頂いている北海道大学名誉教授吉田忠生博士、同大学大学院理学研究科生物科学専攻系統進化学講座教授増田道夫博士、同助教授小亀一弘博士に感謝致します。紅藻サンゴモ科については北海道教育大学函館校秋岡英承教授に御教示頂き御礼申し上げます。日高沿岸産の海藻について有益な御意見を頂いた札幌大学名誉教授三上日出夫博士、長崎大学環境科学部自然環境保全講座助教授飯間雅文博士に深謝致します。

引用文献

- 千原光雄 1972. 日高沿岸の海藻について. 国立科学博物館専報 5: 151-162.
- 三上日出夫 1970a. ハイウスバノリの体構造と生殖器官について. 藻類 18:60-66.
- 三上日出夫 1970b. コノハノリの生長点及びプロカルプについて. 藻類 18:67-71.
- 三上日出夫 1971. ナガコノハノリの新知見について. 藻類 19:85-89.
- 三上日出夫 1974. ヒメコノハノリについて. 藻類 22: 52-57.
- 三上日出夫 1977. コノハノリモドキ(紅藻, コノハノリ科)の完熟体について. 藻類 25:7-11.
- 中村義輝 1944. 日高沿岸加里資源海藻調査報告. 北水試月報 1: 247-256.
- 中村義輝・広部武男・工藤敬司 1955. 日高沿岸のコンブ礁調査報告. 北水試月報 12 (10): 13-19.
- Sakai, Y. 1986. A list of marine algae from the vicinity of the Institute of Algological Research of Hokkaido University, Muroran, Japan. Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Hokkaido Univ. 8: 1-30.

- 佐藤輝夫 1996a. 北海道日高沿岸東静内・浅里浜の海藻 (第1報). 北海道生物教育会会誌 18:57-62.
- 佐藤輝夫 1996b. 紅藻カラフトヨツガサネの培養による生活史. 札幌市立高等学校校長会研究紀要 14:41-46. 北海道大学吉田忠生・館脇正和両教授教授退官記念論文集.
- 佐藤輝夫 1996c. 北海道産紅藻イギス目イギス科カタワベニヒバ・クシベニヒバ・コバノクシベニヒバの生殖季節について. 北海道札幌清田高等学校研究紀要 21:101-120.
- Sato, T. 1997. The seasonal occurrence and phenology of marine algae at Asarihama, Higashi-Shizunai, Hidaka Province, Hokkaido (2nd report). 札幌市立高等学校校長会研究紀要 15:41-63.
- 佐藤輝夫 1998. 紅藻イソムラサキの生活史・生殖季節・分布・教材性. 札幌市立高等学校校長会紀要 16:53-64.
- Yamada, Y. and Tanaka, T. 1944. Marine algae in the vicinity of Akkeshi Marine Biological Station. Sci. Pap. Inst. Algol. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. 3: 47-77.
- 吉田忠生・吉永一男・中嶋 泰 1995. 日本産海藻目録 (1995改訂版) 藻類 43: 115-171.

連絡先

〒004-0863 札幌市清田区北野3条4丁目北海道札幌清田高等学校 佐藤輝夫 TEL: 011-811-1811, FAX: 011-811-2174, E-mail RXF10601@niftyserve.or.jp